琉球大学学術リポジトリ
University of the Ryukyus Repository

Title	中学校男子の性教育内容の構成に関する研究 : A市公立中学校での特別授業を通して
Author(s)	村末, 勇介
Citation	高度教職実践専攻（教職大学院）紀要, 1: 69-80
Issue Date	2017-03-10
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36596
Rights	

国立大学法人
琉球大学
University of the Ryukyus

中学校男子の性教育内容の構成に関する研究

―A市公立中学校での特別授業を通して―

村末勇介

A Study on the Composition of Sex Educational Contents of Male Adolescent : Case of Special Course a Public Junior High School in City A

Yusuke MURASUE

琉球大学大学院教育学研究科
高度教職実践専攻（教職大学院）紀要
第 1 巻
Department of Teacher Education
Graduate School of Education
University of the Ryukyus
No. 1
2017年 3 月

【実践研究】

中学校男子の性教育内容の構成に関する研究
―A市公立中学校での特別授業を通して―

村末勇介

A Study on the Composition of Sex Educational Contents of Male Adolescent
: Case of Special Course a Public Junior High School in City A

Yusuke MURASUE

要　約

若年出産率の高さに代表される，沖縄県における若者の性と性教育を巡っての課題を念頭に置きつつ，中学校男子の性教育の内容構成について検討した。性教育の総合情報誌である『Sexuality』誌の分析を踏まえ，沖縄県A市内の公立中学校での特別授業においては，若者の男性に広がりつつある「射精」への否定的態度を克服するための科学的な内容について取り扱った。生徒らの授業評価，感想文等から，授業内容を積極的・肯定的に受け止める中学生男子の姿を確認することができ，男子の性教育内容の構成にとって必要となる視点と課題を明らかにした。

キーワード：性教育　思春期　男子の性　射精　飛び込み授業　性の学力

1．はじめに

⑴　「命どぅ宝」の島の性の現実

若年出産が日本一の沖縄県では，平成27年度436名の10代の母親が誕生した。これは，沖縄県における全出生数の2.6％を占め，その割合は全国比約２倍に相当する[1)]。助産師の立場から，長年県内の性教育実践・研究に携わってきた笹良は，17歳の未婚の母親から「赤ちゃんをもらってください。わたしは産みたくて産んだわけじゃない」と告げられたことを紹介し，「正しい性の知識や自分を大切にできるこころが培われていたらと悲しい気持ちになり，改めて，性の学びの必要性を痛感させられた」(笹良 2016) と述べている。

一方で，笹良は，こうした背景に「命どぅ宝」の文化が存在するとも指摘する。その平和的・肯定的響きの陰で，例えば，中学を卒業してすぐに「親」となってしまう「子ども」たちの存在は，やはり，無条件に喜びあえる現実ではない。若年出産を含む「性」の現実は，すぐに経済的貧困と結び付き，負の連鎖を作り出す。経済的貧困は，性風俗産業をも含めた「性」の世界へのハードルを低くし，結果として，若年妊娠・出産，性感染症の拡大，性的虐待等々の問題を生じさせ，更なる貧困を導くのだ。この鎖を断ち切ることは，もはや教育の力だけでは不可能である。だがしかし，「性教育」が，生きる上で必要不可欠な知識を獲得するための「準備教育」となることは，しっかりと確認しておくべき事実でもある。

⑵　男子の性教育

ところで，わたしたちは，笹良が聞いたこの声を，17歳の母親，すなわち女性の叫び声としてのみ聞き取ってはならない。それではあまりにも不平等であるばかりではなく，男女の性行為の結果と

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

しての妊娠・出産，それに連なる「貧困」の現実が，女性という一方の性にのみ背負わされることに，容易につながるからである。逆に言えば，男性の側にも，等しく叫び声を挙げさせる必要があるのだ。その認識に立つことによって，性に関する知識の獲得の場としての「性教育」が，すべての子どもたちに保障されているのかどうか，そしてその質はどうなのかが厳しく問われることになる。

では，どのような形で「性教育」の中味を子どもたちに届けて行くべきだろうか。とりわけ，沖縄の現実を射程に入れ，真に「生きる力」を保障するための内容はどうあるべきなのだろう。

長年，日本の性教育研究をリードしてきた村瀬は，２つの調査結果を踏まえ，男子の「射精」に対する肯定感の低さ（調査では，「射精」に関して15％の男子が「汚らわしい」とし，20％が「恥ずかしい」としている）を問題とし，このことは，「男子の性」自体が，これまで放置され続けてきた結果であると捉え，「それが現実の性意識・性関係にいかに災いをもたらしてきたか」と投げかけている（村瀬 2014:2-12）。

次の文は，筆者が担当する「特別活動の研究」において行った性教育の授業の際に書いてもらった男子学生の感想文である。ここからは，更に「男子の性」に留まらず，男子そのものが性教育から放置されてきた現実が浮かび上がってくる。

- ***体の構造については，中学・高校の保健の授業等で聞いていましたが，生理についてはほとんど触れる機会がありませんでした。生理とは何なのか，出血することや痛みを伴うことなどを，全然知りません。知らないまま結婚してしまうと，いろいろと問題があると思うので，今日で知ることができて良かったと思いました。学校でももっと伝えるべきではないだろうか。***
- ***余談になるが，小学生のころ，女子だけが体育館に呼ばれていたのが気になって，後でクラスの女子に聞いたら，せいりについて教えてもらったと聞いた。自分は生理ではなく，整理だと思い，女子はこんなに早くから花嫁修業するんだなと思い，女子に「整理はしっかりするんだぞ」と言ったら，「きも！」って冷たく言われたのが，今でも印象に残っている。***

村瀬の問題提起ならびに学生の感想文から示される事実を，笹良が指摘する沖縄の現実とつないで引きとるならば，「命どぅ宝」の文化を，改めて「性」の視点から見つめ直し，その上で性教育の内容を吟味し，実践化することが課題とされるべきではなかろうか。緊急の課題として。

⑶ 研究の目的

本研究では，以上のような認識に立ち，中学校における性教育の内容構成，特に「男子の性」に焦点化して検討を試みる。素材とするのは，筆者が行った，沖縄県Ａ市内の２つの中学校（Ｂ中学校：2016.7.4実施，Ｃ中学校：2016.9.7実施）における男子への特別授業，ならびに学部の「特別活動の研究」での同一の流れによる模擬授業とそれぞれの感想文である。その作業を通して，中学校男子の性教育の内容構成に関する視点と課題を提起したい。

２．中学校性教育実践の内容把握～『Sexuality』誌における実践の検討

⑴ 『Sexuality』誌について

男子の性教育の内容構成を考えるに当たって，まず先行実践の検討を行う。検討対象の実践は，‘人間と性’教育研究協議会（以下，性教協）の機関誌『Sexuality』（エイデル研究所刊）に納められた35本の中学校での実践記録である。本誌は，わが国において唯一と言ってよい，現場実践に根ざした性教育に関する実践および理論の研究誌として，増刊号を含む年５冊の発行を続け（2001年１月に第１号発行，本稿執筆時迄に78号が発行されている），学校や地域において性教育に主体的にとり組む人たちのための「手引き書」の役割を果たしている。

したがって，全国の性教育の実態を反映しているというよりは，先進的で目的意識をもった実践者が，性教育において，どのような内容を位置づけているかを把握することが可能であると考えられる。

⑵　実践報告の特徴

35本の実践報告について，表- １に，発行年月（号数），著者名，実践報告タイトル，対象，領域，時数，授業のねらい，扱われているテーマ・学習内容等について，示した。以下，実践報告の特徴について簡単に整理しておきたい。

①女性教諭・養護教諭による実践と報告

35本のうち，28本が女性教諭，そのうち18本が養護教諭による実践報告である[2)]。性教育の研究団体である性教協においては，意識的に参加している「男性」会員も少なくないが，やはり子どもたちの「性」や「健康」問題に関する最前線の現場で働く，養護教諭の割合が圧倒的に高く，したがって，「女性」会員がその大部分を占めている。

ところで，橋本らの調査によれば，中学校の性教育の担当教員は，年間指導計画を作成している学校において，①担任（78.5％），②保健体育科担当教諭（74.5％），③外部講師（62.1％），④養護教諭（47.3％），⑤家庭科担当教諭（19.1％），⑥理科担当教諭（13.8％）となっている。また，性教育が取り扱われている教科・領域としては，①保健体育（81.2％），②学級活動（52.8％），③道徳（33.6％）という結果であった（橋本他2011）。

したがって，中学校における性教育の実際の授業形態としては，保健体育教師による保健体育の授業，担任と養護教諭（共同・単独）による学活もしくは道徳の授業，いずれかの領域を使っての外部講師の授業，その他の授業という４つに類型化できるだろう。

とりわけ，教科担任制である中学校においては，具体的な実践自体が，保健体育や家庭科での女性教諭による授業，学活を使っての養護教諭による授業として一般的に展開される傾向があり，それが，性教協の機関誌に納められた実践報告の実態からも読み取れる。

②「思春期」の実態から導かれた内容

表－１に整理したように，それぞれの実践報告は，一単位時間の授業，総合的な単元全体の指導，中学校３年間を見通した指導といったように，多様であり，実践対象も様々である。したがって，内容の系統性を踏まえたり，領域的な分布・偏りなどを分析的に把握したりすることは難しい。しかしながら，「性」について学校で共通に学ぶ場としては最後となる生徒も存在する，義務教育修了段階の３年生を対象とした実践の報告が20本（約57％）を占めていることからも想像がつくように，実践者が，中学生の実態から課題（ねらい）を設定し，内容を決定している点は共通していると言えよう。

例えば，№５の吉村実践では，「アンケートの中の，『異性との交際の程度，どこまでならよいと思いますか？』という質問に対して，『限度はない』と答えた生徒が半数いた。さらに，『わからない』と答えた生徒が25％程度いる」という実態から，中学生の交際，性交，避妊法，責任，望まない妊娠，相手の人権，進路，幸福といった内容を位置づけている（吉村 2003）。また，№31の戸田実践では，「先日，ある１年生の女の子が授業中に突然泣き出しました。窓際の一番前の席。髪の毛で顔を隠しながら，声を押し殺して泣いている。クラスの子どもたちは誰もその姿に気づいていない。…（中略）…原因は，部活動の人間関係でした。その子は，自分の本音をなかなか表に出せないことが多く，人間関係のストレスをためこんでいたのです」という実態をキャッチするところから，人間関係，恋愛，本音を語れるということ，といった学習内容を位置づけ，学習を展開している（戸田 2011）。

性教育が，性に関する科学的内容に立脚して行われることは，当然のことである。しかし，もしそれが，子どもたちの「生きる」現実，人間関係の成立する空間から遠く離れたところで展開されるならば，そこで獲得された知識は「絵に描いた餅」の領域に留まるだろう。全ての教科がそうで

表－１　『Sexuality』誌(2001年-2015年)に掲載された中学校性教育実践

No.	発行年月(号数)	著者名	実践報告タイトル	対象	領域	時数
			授業のねらい	扱われているテーマ・学習内容等		
1	2001.1(1)	樋上典子	「避妊」と「中絶」を自分のこととして考えよう-ロールプレイを通して自らの性のあり方を問う-	３年	保健	４
			●人間の性の特徴を理解し，避妊，中絶の知識をたしかなものにする。●望まない妊娠を自分自身の問題として考え，「中絶」に至らないよう「避妊」の大切さを理解する。●自らの性のあり方を問う機会とする。	自然の性，文化の性，性交，妊娠，避妊，中絶，母体保護法		
2	2001.4(2)	高橋勤子	男らしさ・女らしさって？ー固定化された性別役割をえるためにー	不明	不明	３
			●人間の生徒は，その人の一生を通じて人格や生き方に深く関わってくる大切なことだという認識を持たせる。●体つきの違いは個人差が大きいことを知り，ありのままの自分の体を大切にしようという気持ちを養う。●男らしさ女らしさは作られていることに気づかせ，らしさにとらわれない態度を養う。	人間と性，二次性徴，体の変化，個人差，インターセックス，男らしさ・女らしさ		
3	2002.1(5)	福田博行	「生命からの学び」の中に位置づけて	1・2年	社会他	３６
			●科学的な知識を身に付けさせ，自分の性＝生をどう生きるかを考えさせる。	性を学習する意味，性器，射精，自慰（男性），ペニスの個性，包茎，月経，女性の体のリズム，おりもの，月経痛，自慰（女性），精子，卵子，排卵，受精，着床，胎盤，妊婦体験，分娩，お乳，不妊症，人工授精，性交，避妊，中絶，性感染症，エイズ		
4	2002.1(5)	浅井佐智代	メディア・リテラシーからジェンダー・性を考える	全学年	不明	各1
			●自分たちの生活の中に「らしさ」に対するこだわり（ジェンダーバイアス）が多くあることに気づかせる。	職業と性，ジェンダー意識，女らしさ・男らしさ，メディアと性		
5	2003.1(9)	吉村良枝	ディベート・中学生の交際に限度はあるか	３年	総合	1
			●自分にとって生徒は何かを考え，性を肯定して捉えることができるようになり，性について自己決定する力へと結びつける。	中学生の交際，性交，避妊法，責任，望まない妊娠，相手の人権，進路，幸福		
6	2003.4(10)	石田ゆかり	あなたらしく，わたしらしくー自己肯定　自分らしさとなりたい自分	3年	家庭	1
			●自分に関する自己評価を改めて意識させる。●15歳の自分が思春期のただ中にあり，心も体も大きく変化している最中で，いまの自分が最終的な自分でないことを知る。●自分らしさはこれからの自分が作るものであることに気づかせる。	思春期の特徴，マスコミの影響，（二次性徴，生殖器の仕組み，名称，はたらき，生命誕生，生殖の性，自分勝手な性，性暴力，性犯罪，性的マイノリティー，性感染症）		
7	2003.4(10)	佐藤益美	エイズとともに生きる	3年	学活	1
			●実際にエイズと向き合い，エイズと闘ってきた人たちの思いを知り，彼らの生きざまからエイズに対する偏見や差別をなくし，共に生きようとする態度を学ぶ。	エイズの知識，患者・感染者への偏見，共に生きる		
8	2003.9(13)	栗嶋明美	楽しく語り，わかる「ハート＆ハート」の性教育ー養護教諭からのアプローチ	1~3女子	保健	各1
			1年生：●月経時のマナーを守り，月経の期間を快適に過ごすことができる。●月経・排卵の仕組みを通して，自分のからだの成熟を理解する。 2年生：●月経・排卵の仕組みを通して，自分のからだの成熟を理解する。●思春期のからだをくわしく知り，不安や悩みに対処できるようにする。 3年生：●月経・排卵の仕組みを通して，自分のからだの成熟を理解する。●いろいろな月経のケア方法を知り，月経の期間を快適に過ごせることを理解する。	1年生：トイレの使い方，ナプキンの捨て方，外性器の仕組み，月経・排卵の仕組み，月経ケア，月経時の過ごし方／2年生：月経・排卵，外性器の仕組み，からだの成長の個人差，自分の体の発達に合った下着の選択，思春期の快適な過ごし方／3年生：月経・排卵，外性器，月経のケア方法，タンポンの形・大きさ・種類，使い方，経血吸収率，月経時の過ごし方		
9	2004.4(15)	新井　保	性行動ー安心・安全に支えられた関係を築く	不明	不明	2
			●「安心と安全」に支えられた関係を築いていくために，意思をうまく相手に伝えていくためのスキルやコミュニケーション能力を身に付けさせる。	性行動，関係性，安全日神話，膣外射精神話，「ＮＯ」という訓練		
10	2004.4(15)	多根千晶	これからの私たちー「性的自立」を目指した課題を見つける	3年	学活	1
			●「性的自立」するための課題を見つける。	１０代の妊娠中絶，自立とはどういうことか，性交するときに必要な義務と責任，幼児虐待が増えている理由，愛があれば性交してもいいか，援助交際，対等な関係とは		
11	2005.4(20)	本間江理子	避妊って知ってる？	３年	不明	1
			●避妊の知識を方法論で与えるのではなく，「使える」には相手の心と体をどれだけ思いやれるか，互いに向き合ってどれだけ話し合いができる関係かが大切であることを気づかせる。	性交と妊娠，避妊，コンドーム，コンドームを買うために必要なこと，中絶		
12	2005.4(20)	脇野千恵	性交ー私の選択・性行動	3年	不明	2
			●人と人とのふれあいは感覚器官である皮膚が，大きな役割を果たしていることを知る。●人は生まれてから，いろいろなふれあい，タッチングを積み重ねながら育ち，大人になっていくことに気づく。●人は新しい生命を生み出す生殖の「性交」だけでなく，コミュニケーションの一つとしてより深いふれあいのための「性交」をすることを知る。●「性交」は性的に成長，成熟し自立した大人の営みであり，人の心を豊かにさせてくれるものであることを知る。	皮膚の役割・感じ方，ふれあい，ふれあいの対象，タッチング，ふれあいの12段階，ふれあいの連続性，性交，生殖の性交，ふれあいのための性交，中学（高校）生の性交		
13	2005.4(21)	大江亜紀子	「自分らしく生きる」ことに自信が持てるようにー総合的な学習の時間を活用して	1年	総合	21
			●性別による決めつけや性別役割分担がどのようにして人々に認識させられていくのかを自分たちが歩んできた道をふり返ることにより，客観的に判断し，それに対する自分の考えを持たせたい。●誰もが納得し賛成する「個性を認める」ということを実際の生活の中で実践するためには，自分に，また自分が所属する集団にはどのような課題があるのかに気づかせ，それを解決するためにはどうすればいいのかを考えさせたい。●学習したことや感じ考えたことを自分たちの言葉でまとめ，学年の仲間に発信することで，「自分らしく生きる」ことに自信を持ち，それが認めあえる集団作りのきっかけとさせたい。●今すぐには無理であるが，将来，社会で活躍するようになったり，パートナーとの関係を築くようになったとき，「自分らしい生き方ができる社会」であることが人権を大切にした生き方ができる基本となることに気づける力をつけたい。	性別役割分担，ジェンダー・フリー		
14	2005.7(22)	新井　保	間違いだらけの「性交」ー後から後悔しないために	不明	不明	1
			●クラスの生徒達の生意識をアンケートやディスカッションで明らかにする。●誤解や男女の考え方の違いなどから，「性交」の意味について見つめ直させる。●「生命誕生」「ふれあいの生」「避妊と中絶」などの展開へのステップとする。	高校生の性交経験率，中学生の性交，性交の意味と意義，生殖の性，文化の性，快楽の性，ふれあいの性，売買春の性，暴力の性		
15	2005.10(23)	小田切孝子	思春期真っ只中の中学生に伝えたい！　性器の分化／ＳＴＤの授業	不明	保健	2
			●人の命の初期の時点では，性は良性のいずれにも成長する可能性を持っていたことを理解させ，女と男の“からだ”がまったく別の“からだ”　から生まれているのではないことを知らせる。●人の性は外見や遺伝子だけでは決定できないことを学び，様々な性があることを視野に入れるよう導く。●エイズ感染だけではなく，クラミジアなど広く性感染を捉えさせ，からだや人との関係性を学び，自身の行動変容に至らせる。	受精，着床，胎芽，ミュラー管，ウォルフ管，Ｘ染色体，Ｙ染色体，生物学性の決定，からだの性（生物学的性），心の性，性的対象（誰を愛するか），ジェンダー（文化・社会的な性）／コンドーム，感染，セーファーセックス，膣外射精		
16	2006.4(25)	須賀はな江	「好きな人との関わりを考える」ディベートを通して考える性の学習	2年	学活	2
			●ディベートを行うことにより，性についてそれぞれがいろいろな視点から深く考えることができる。	好きな人との関わり		

17	2006.4(25)	hana	増える性感染症ーそこで自分は	3年	学活	2
●性感染症の原因，症状を知る。●性感染を予防するには，病気に対する理解と性行為に対する適切な判断が必要であることを理解する。●身近なところで感染に気付いた時の，自分の行動について考える。			性感染症，クラミジア感染症，性器ヘルペス，尖圭コンジローマ，淋病，梅毒，トリコモナス感染症，カンジダ感染症，毛じらみ，HIV感染症，不妊症，感染経路，予防方法，感染したらどうすればよいか，今後の自分の行動			
18	2006.4(25)	浅井佐智代	メディア・リテラシーとジェンダー授業	中学生	学活	1
●メディアの制作者が私たちに何を伝えたいのかを読み取る。●メディアの中の隠れたジェンダー・バイアスに気がつく。			メディア・リテラシー，ジェンダー			
19	2007.4(30)	大江亜紀子	「すきま性教育」実践のススメー恋愛編	中学生	学活	1
●“恋愛”は多様なものであることに気付き，画一的な情報を冷静に受け止め，適切な対応ができる態度を養う。●相手に自分の考えを伝える，相手の考えを受け入れる体験をすることで，より豊かなコミュニケーションについて考え，それを実行しようとする態度を養う。			対等なパートナーシップ，恋愛			
20	2007.4(30)	石川ゆり	人間の生のさまざまな側面をとらえるー生徒の心と頭に，楽しい授業でゆさぶりを！	3年	学活	2
●人間の性には，生命の誕生を目的としないものがたくさんあり，それらは多くの情報となって身近にあふれていることに気づく。●性はその人の考え次第で，全く違う意味を持つことに気づく。●人間のそれは本能だけではなく，学ばなければ身につかないことを理解する。●自分なりに，どのような性を生きていくかを考えようとする。			生殖のための性，愛情と理解のコミュニケーションをより深める性，お金が関わったり相手に対する責任を考えないその場だけの性，相手を傷つける性・自分勝手な性			
21	2007.4(30)	髙橋勤子	失恋学習「ショック！断られてしまった！」	3年	学活	1
●恋心を相手から拒絶された際のいろいろな対処法について考え，拒絶は受け止めるしかないことを理解する。			拒絶されたら…，仕返し（報復），犯罪事例，原因，対処			
22	2008.4(35)	渋井美聡	性感染症“それって私に関係あるの？”	3年	学活	2
●性感染症について知識を持ち，自分にも関係ある病気であることに気づく。●予防するには，自分がどう行動すればよいかを理解する。			性感染症（STI）とは，淋病，性器ヘルペス，尖圭コンジローマ，梅毒，エイズ，病原菌，潜伏期間，感染部位，感染経路，症状（無症状，軽い症状），STIの現状，STIの予防（危険な行為をしない，コンドーム，検査，相手に治療させる）			
23	2008.4(35)	髙橋節子	恋する心を考えよう	3年	学活	1
●思春期の子どもたちの「性」への関心の高まりをとらえ，互いの人格を認めあえるような交際について考え，理解する。●アンケートの結果を見て，それぞれの考え方に違いがあることを知り，自分の思いだけでなく相手の思いを大切にしながらよりよい人間関係を作っていく。			思春期の体の変化，思春期の心の変化，旧皮質，新皮質，どうして人を好きになるのか，HLA，好きな人ができたらどうしたいか，つき合うとはどういうことか，恋愛天秤			
24	2009.1(39)	岩田清彦	小学校教諭が取り組む中学生への出前授業	2年	特設	1
●二次性徴の変化は必要な変化であることを知らせる。●二次性徴の特徴を知らせる。●性はいやらしいという否定的な思いを柔軟に考えさせる。●好きな相手は人それぞれであることを知らせる。●お互い恋人関係であれば，いやな要求も受けたり，そうしないと嫌われると思ったりすることをの理不尽さを考えさせる。			受け継がれるいのち，二次性徴の主な特徴（性器の成長，射精，勃起，遺精，乳房の成長，排卵と月経，月経不順，月経時の処理，二次性徴の不安，反抗的な態度），「性」の4つの視点（性別，性自認，性指向，ジェンダー），「好きになる」ということ，対等・平等な関係，情報にだまされない			
25	2009.4(40)	山口康平	ドキドキ　その後に…　性情報の受けとめ方と性の自己決定	2年	学活	1
●性の問題を自分自身の問題として捉え，性行動の自己決定について考えさせる。			性行動，恋愛観，性交はいつからならかまわない，淫行条例，中学生の性行為データ，高校生の性行為データ，性行為のリスク，性行為を煽る情報，ピア・プレッシャー，避妊			
26	2009.4(40)	竹岡良太	受精　動物の有性生殖	3年	理科	2
●身近な資料を参考にして，動物の生殖の方法を理解する。●動物の有性生殖の始まりである受精とは何かを理解する。●動物の受精卵から胚までの発生の仕組みを理解する。●他の動物とヒトの育っていく過程のちがいを知る。			卵，卵巣，精子，精巣，受精，受精卵，妊娠，細胞分裂，発生，胚，セキツイ動物の発生の様子，有性生殖，無性生殖			
27	2010.1(44)	髙橋勤子	デートDVーよりよい関係をつくるために	不明	学活	2
●デートDVDについて知識を持ち，自分にも起こる可能性があることに気づく。●より良い関係とは何かを考える。			DV，デートDV，デートDVと自分，DVの原因，デートDVの防止，デートDVの対処			
28	2010.4(45)	海瀬由布	二人のいい関係を作ろう～中学三年生へ卒業前のメッセージ～	3年	学活	1
●卒業を間近に控えた三年生に，これからの人生の中での出会いを大切にすることを伝える。●関わりについて考え，避妊，妊娠の基礎知識を身に付けさせる。			異性愛，同性愛，避妊，避妊方法，妊娠，認識週数の数え方，人工妊娠中絶，関わりの大切さ			
29	2011.4(50)	楠　裕子	「多様なセクシュアリティ」の授業	3年	学活	2
●同性愛や性同一性障害についての偏見●思い込みを認識し，身体の性，性死せ任，性的指向についての理解を深める。●カミングアウトは信頼をもとに行われるものであることを知り，カミングアウトする／される関係を自分の問題として考える。●性の多様性（グラデーション）についての理解を深める（復習）。●教師やゲスト（同性愛者）の話を聞いて，セクシュアルマイノリティに対する偏見，自分との同質性や差異について考え，多様なセクシュアリティを身近な問題として（自分の問題として）捉えられるようになる。			同性愛者の現実，カミングアウト，多様なセクシュアルマイノリティ，LGBT，トランスジェンダー，同性愛，異性愛，バイセクシュアル，インターセックス，当事者の話			
30	2011.4(50)	山下ひろし	知って考える，わたし自身の性行動	3年	学活	4
●「どんな自分ならセックスをしてもいいか，どんな相手とならセックスしてもいいか」について考えさせる。			性交，初交をした理由アンケート，妊娠のメカニズム，避妊，妊娠週数の数え方，避妊方法，中絶・性感染症，コンドーム，「安全日」，デートDV，どんな自分ならセックスしてもいいか			
31	2011.4(50)	戸田玲子	大好きだから！～ホントの気持ち伝えられる？～	1・3年	学活／家庭	1
●自分の意思をきちんと伝えることが，パートナーとのステキな関係づくりに大切であることを考える。●自分を大切にし，相手を大切にすることの大切さを考える。			人間関係，恋愛，本音を語れるということ			
32	2011.7(52)	野田朋子	わたしとあなたの対等な関係ーデートDVを防ぐためにー	不明	道徳	1
●デートDVDについて知り，DVにつながる間違った思い込みについて考える。●力による支配や暴力容認感覚に代わる対等で非暴力な関係のイメージをつくる。			「あるべき姿」の押しつけ，対等な関係，上下関係，交際相手とのつきあい方，デートDV，対等な関係をつくるために			
33	2015.4(71)	西真理子	ステキなステキなコミュニケーション	2年	学活	3
●恋愛は多様であることに気づき，性に関わる人権について気づく。●相手に自分のことを伝える，相手の考を受け入れる，より豊かなコミュニケーションについて考え，それを実行しようとする態度を養う。●性の情報源に男女差があることに気づき，なぜ性差があるのかを考える。●性情報には，間違った情報や無責任な情報があり，女性の人権やからだ，心を傷つけるものがあることに気づき，その選択ができる力と適切な対応ができる態度を養う。●思春期の心（性差），性被害・加害など性交に対する考え方や望まない妊娠について考え，より良い関係性を学び育てる態度を養う。			性への関心，人を好きになること，交際，支配・暴力，性の情報源，アダルト系コミック・漫画，「性欲の中にいる男子」，「恋愛の空気で十分な女子」，性交（生殖，ふれあい，支配・暴力，利益），性被害，性交に関する責任（避妊，妊娠，性感染症，自分と相手の人生），妊娠した時			
34	2015.4(71)	石田智子	商品化される性	2・3年	学活	1
●出会い系カフェの広告のねらいを考えることを通して，商品として売られる性や身の周りの情報に制作者のどのような意図が入っているかに気づき，様々な情報の中から自分に必要なものを選ぶ判断力を養う。			新聞広告，マンガ喫茶の広告，商品にされる女性，買う男性，性欲の対象としての女性			
35	2015.4(71)	樋上典子	避妊と中絶～正しい知識を伝え，本音で語り合おう～	3年	学活	1
●パネルディスカッションを通して，中高生の性交に伴うリスクを自分たちの問題として捉える。●避妊と中絶についての正しい知識を獲得する。●性のリスクを避け，安全な性行動を選択する力を培う。			人間の性の特徴，パネルディスカッション，10代の中絶，嬰児遺棄事件，母体保護法，中絶のリスク，避妊（ピル，コンドーム，緊急避妊薬），話し合える関係，相談			

あるように，子どもたちの実態により導かれる，目標－内容－方法の一貫性が大事なのであり，とりわけ性教育においてはこの視点を欠くことはできない。「思春期」の実態を抜きに，中学校性教育の内容を導き出すことはできないのである。

⑶ 「射精」に関する内容について

ところで，前章において，「射精」に対する否定的受け止めの問題点と課題については確認したが，ここで分析した35本の実践においても，やはり，その解決につながる学習内容が十分に準備されているとは言い難い。

村瀬は，「射精」が肯定的に受け入れられにくい主な理由として，次の３つを挙げている（村瀬2014:18–19）。

①白くてドロッとねばねばしていている精液が汚いと思えてしまう。

②精液が尿道を通って出てくるので，不潔だと思っている。

③射精の時に快感を感じる（その感じ方には個人差があるが）ことが，自分だけそうなのかと思い込んでしまって，自分はいやらしいとか卑しいと思う男子がいる。

「射精」に関しては，№.３，９，15，24の実践報告において採り上げられているが，具体的な内容としては，その意味やメカニズムの説明に留まっており，上記の３つの理由に正面から答えられる射精に関する学習内容を準備する必要があると言えよう。

３．Ａ市内Ｂ中学校２年生のアンケート調査の結果から

性教育の展開にあたっては，学習主体である児童・生徒の実態を把握し，そこから導かれる彼らの必要性に答えていくことが前提となることは，既に述べた。特別授業として性教育を行う場合においても，可能な限り児童・生徒の実態を把握しておく必要があり，今回Ｂ中学校では学校を訪問し，養護教諭と学年主任との事前打ち合わせの時間を設定，Ｃ中学校では養護教諭との数回の電話とメールによるやりとりを行った。

ここでは，今回の特別授業の大枠を構想するにあたっての前提となった，Ｂ中学校の事前打ち合わせで紹介されたアンケートの結果から，実態を探り，課題を明らかにしたい。

⑴ 自尊感情

図１は，自分が生まれてきたことについての受け止め方の結果であるが，「すばらしいこと」と答えているのは，男女で半数を超えてはいるものの，それ以外の否定的答えも多く，特に男子に顕著である。また，図２では，「自分という存在」を自信を持って「大切だ」と思える子が３分の１程度に留まっている。

理由は明らかではないが，「思春期」時代を生きる中学生の不安定な精神状態に寄り添う存在としての大人のあり方，揺れる自分自身を肯定的に受け止めることができるような学習の機会が求められると言えよう。

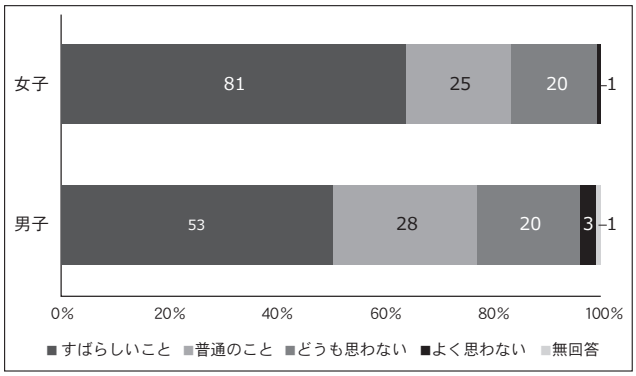


図１　自分が生まれてきたことをどう思いますか？

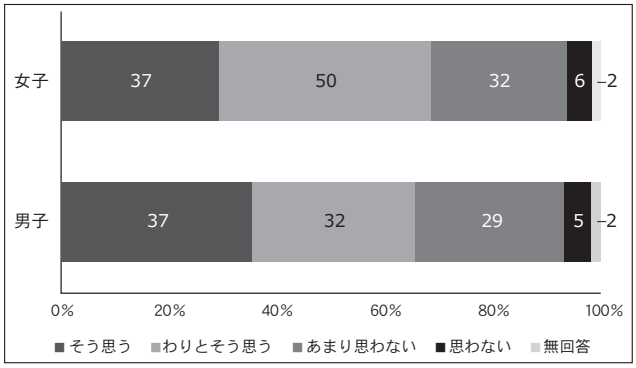


図２　自分という存在を大切に思えますか？

⑵ 「性」への構え・性行動への態度

図３・図４をみると，「性」に対する男女の構えが大きく異なっていることが理解できる。

「性」を「とても大切なこと」「愛情を確認するもの」と捉えた生徒が，女子では約63％である

のに対し，男子は，50％であった。逆に，「はずかしいこと」「いやらしいこと」では，女子23％，男子35％となっている。

さらに，性行動の一つの形と考えられる「男女交際」については，男女共に「２人でお喋りしたり，一緒に遊んだりする」といった思春期時代の傾向として理解できる「接近欲」の高まりを背景としているが，２番目の回答として，女子では「手をつないだり，肩を組む」が多かったのに対し，男子では，いきなり「性交（セックス）する」が２番目となっており，男子への性教育の内容は，こうした実態に目をつむることなく，構想される必要があるだろう。さらに，この結果には男女差はあるものの「性交」という性行動へのハードルの低さが明確に示されていると言えよう。そのままでは，冒頭に紹介した若者の性の現実は，放置されたままとなってしまう。

更にまた，「男女交際」について「考えたことがない」と答える生徒が男女共に半数近くもおり，人間関係の学習という視点からも，積極的に学びの機会を用意する必要があるのではないだろうか。

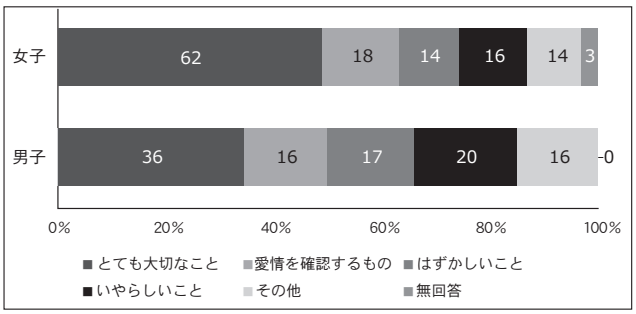


図３「性」という言葉から何をイメージしますか？

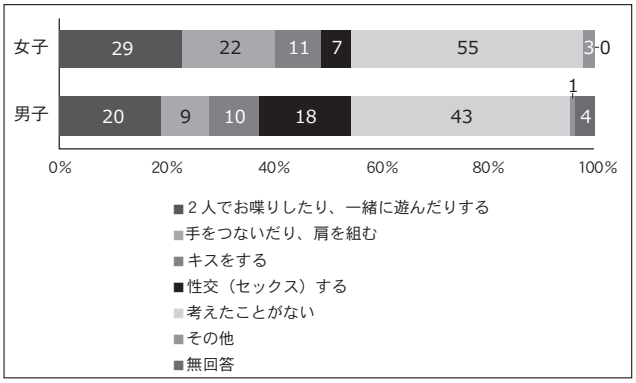


図４　あなたにとって中学生の男女交際はどこまでだと思いますか？

⑶　「性」に関する知識と性情報の入手先

図５，性交の結果（リスク）としての「妊娠・出産」について，女子は約63％が，「よく知っている」「ある程度知っている」と答えているが，男子は38％に留まり，大きな開きがある。しかし，女子であっても，35％が「あまり知らない」「全く知らない」と答えているわけで，「男女交際」の質問での「性交」という回答の割合の高さの背後に，この現実があるとすれば，やはり問題である。

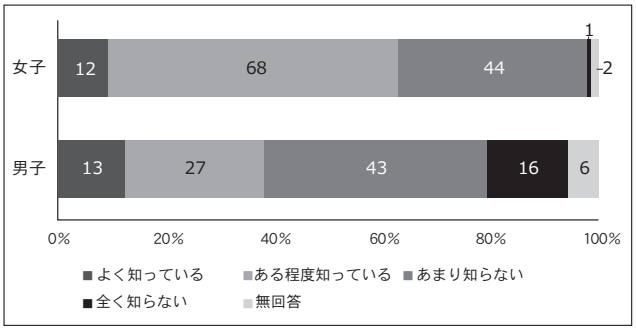


図５　あなたは妊娠・出産についてどの程度知っていますか？

しかし，希望は，図６「『性』に関する情報」の入手先が，「友人」（男子43％，女子37％）「授業・教科書」（男子40％，女子43％）という結果である。「友人」という存在は，その友人がどこから情報を入手したかを問う必要があり，その先の情報源が「授業・教科書」である割合が高いということであるから，性教育の授業を充実させていくことで，「性」に関する知識を確かなものにしていくことの効果が期待できるということになるのだ。

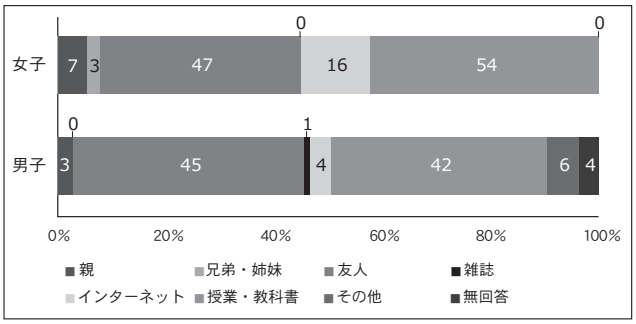


図６　あなたは「性」に関する情報をどこから得ていますか？

４．Ｃ中学校（３年生男子70名）における授業づくりの実際

⑴　特別授業（飛び込み授業）の位置づけ

筆者は，現在，琉球大学教育学部附属教育実践センターによる「アドバイザリースタッフ派遣事業」のスタッフの一員として，学校現場での飛び込み授業形式での性教育にとりくんでいる。性教

育授業の要請は，主に次の３つの理由による。１つは，まずもって子どもの性の実態からの性教育への要求があること。特に，県内の中学校では，卒業後間もなくの妊娠・出産といった事例が，頻繁に発生し，問題になっているという実態がある。２つめは，現場教師の多忙化や性教育自体へのとりくみと展開の難しさにより，こうした実態を打開できるような，性教育実践が日常的にできていないということ。そして，３つめが，「性教育の専門家」による「特別授業」の要請としてである。

2016年度は，A市の２つの中学校に出向き，授業を行ったが，どちらの学校でも卒業後の生徒の性を巡っての問題を抱え，苦悩する教師たちの現実があった。筆者自身は，性教育の授業は，基本的に，子どもたちとの日常的な関わりの時間と場を持ち，その実態を直接的に把握できる学校の教師自らが，行うべきであると認識している。しかしながら，昨今の教育現場の多忙な状況を踏まえるならば，できるだけ現場の要求に応えることがより現実的な対応であろうと考え，要請された学校の授業実践や日常のとりくみにつながるような「提案の場」と位置づけて，授業を実施することにしてきた。また，子どもたちに向けては，真面目で真剣な「性の学習」への水先案内人的役割をも果たしたいと考えている。

⑵　特別授業担当者との事前打ち合わせ

したがって，飛び込み授業に関する事前打ち合わせは重要であり，学校の実情に合わせた形でできるだけ丁寧に行いたい。本年度実施した２つの中学校は，共に，「男女それぞれの二次性徴に関する内容は，お互いに存在を意識し過ぎてしまう」，「異性がいたら，質問もしにくい」といった思春期の心理状況に配慮したいという理由から，男女別での授業が計画されていた。そこで，C中学校の事前打ち合わせでは，前章で触れたB中学校生徒の実態を参考にしながら，思春期を生きる３年生男子の性の認識，性への態度，交友関係，全体的な自尊感情の傾向，学習への姿勢等々について，電話とメールでのやりとりを行い把握した。その上で，主たる学習のねらい，学習内容，展開方法（機材等を含む）の構想を伝え，それに対する修正意見等を引きとりながら，実際の授業を組み立てていった。

この過程において，特筆しておかねばならないことは，B・C両校の授業においては，卒業生も含めた生徒の性行動の問題に直面し苦慮していることから，教育現場ではタブー視されたり，敬遠されたりしがちな「性交」についても「しっかりと内容として扱って欲しい」という要望があった点である。「妊娠」や「性感染症」といった，正に生徒が今後直面するであろう内容，そして本授業でとり扱う『射精』について，「性交」を抜きに伝えることは不可能，もしくは不十分であり，この要望自体は当たり前のものである。しかし，性教育へのとりくみが大きく停滞している現状で，形式的な性教育に留まらず，子どもたちの生と性に真剣に向き合おうという学校，教師の思いや真剣さ，更に，責任を引きとる姿勢が，性教育の内容に反映していくという典型例として確認しておく必要がある。

⑶　特別授業の全体像

実際の授業の全体像は，次の通りである。

①日　時　2016年９月７日（水）５校時

②対　象　A市立C中学校３年生４クラス・男子70名

③授業名　今，ここに生きるいのち～未来のために「自分」をみつめる第一歩～

④主なねらい

ア．ライフサイクルの中の「思春期」の位置とその意味，自分の心身に起こる成長･変化について知り，自分の「性」を肯定的に受け止めることができる。

イ．自分の「生」を，他者との関係性の中で捉え，それを自ら豊かなものにつくり上げていくための具体的な方法について知る。

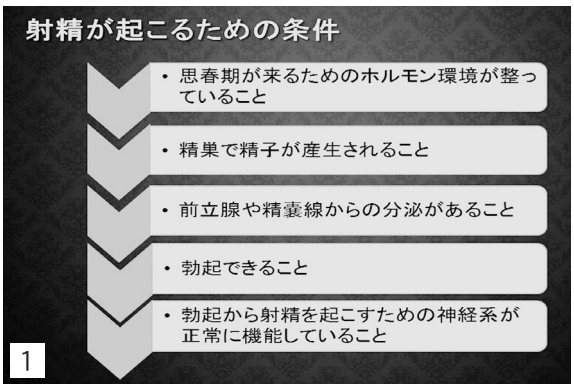
⑤学習内容の構成と展開

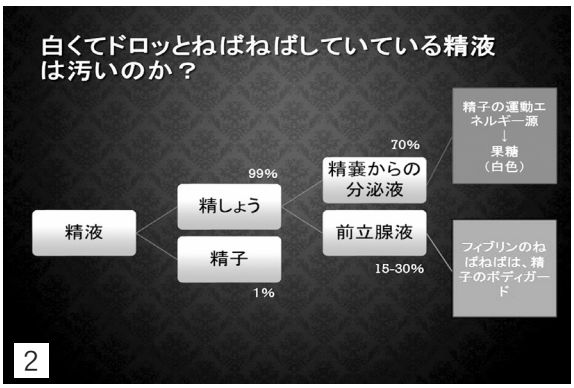
各テーマと主な学習内容	ねらいと主な資料・配慮事項等
１．思春期とは ・時間軸に基づいた思春期の位置 ・思春期チェック ・「思春期」とはもともと人間の性に関する成長と結び付いた概念 ・思春期は第二の誕生の時，産みの苦しみの時 ・最大の悩みは「性」に関する悩み	○今の自分が生きている時代を捉えさせる ・誕生－乳幼児期－児童期－青年期－成人期 ・思春期の心理テスト ・思春期：adlescence，puberty
２．男子の性に関する○×クイズ	○学習の見通しを持たせる
３．思春期男子の「性」を知ろう ・男子の体の成長・変化と男性ホルモンの働き ・女子の体の成長・変化と女性ホルモンの働き ・男性器の仕組み(外側・内側) ・精子(大きさ・数・作られ方・発見の歴史) ・射精(射精の条件と射精を肯定的に受け入れられない理由…精液が汚い／尿道を通るので不潔／快感が伴うのでいやらしい) ・精液のつくりと経路(尿道) ・射精時の快感と生殖戦略 ・性器の形の多様性と包茎のタイプ（日本人の７割は仮性包茎／手術の必要性）	○二次性徴，射精を中心として，男子の体の成長について知らせ，肯定的に受け止める力をつける ・主にスライドを使い視覚的に捉えさせる
４．未来を幸せに生きていくために ・他者との関係性の中で生きる ・ライフステージとホルモンバランス，親子関係 ・妊娠の可能性のあるカップルの関係 ・性感染症と自己チェック(トイレ・風呂・情報) ・性交をする資格 ・LGBTQ ～性の多様性	○関係性において「性」を捉えさせる ・人間関係－親子，友人，恋人，他人… ・関係のあり方に影響を与えるホルモンバランス ・性交と妊娠，性感染症のリスク ・健康の自己管理能力－思い当たる行為・日常生活の中にある自己チェックの場 ・男と女の二分法で捉えることのできない性

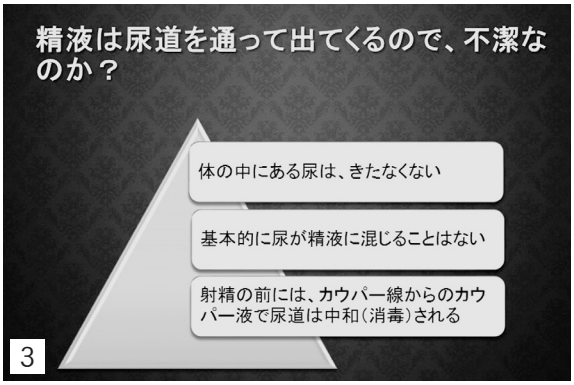
⑷　「射精」に関する４つの内容

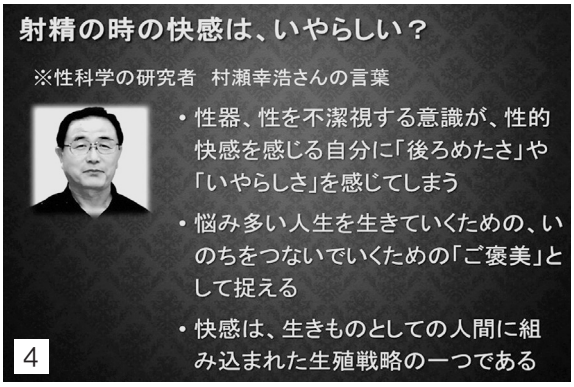
ここで，本授業において意識的に位置づけた内容の１つである「射精」に関する具体的内容について説明しておかなければならない。本稿の初めにも書いたように，村瀬は，男子の「射精」に関する否定的態度の割合の高さを問題としながら，その理由として考えられる，①精液の色と形状，②汚いというイメージ，③快感，について学習内容として位置づける必要性を示し，そこで伝えるべき内容について医学的･生物学的知見を元に解説している（村瀬 2014:18-29）。

筆者は，これを踏まえて，次のようなスライドを準備した上で，まず，①「射精」そのものが，人間の体の発達と正常な働きにより成立することを確認した（スライド１）。そして，②精液のなりたちとそれぞれの成分の役割と特徴（スライド２），③精液の通り道としての尿道が消毒されるメカニズム（スライド３），④生殖戦略としての「快感」（スライド４）という科学的な視点から説明を行った。男子の持つ「射精」への否定的態度は，科学的な知識の獲得と，その知識を仲間と共有することによって身につく力によって乗り越えられるのではないかと考えている。





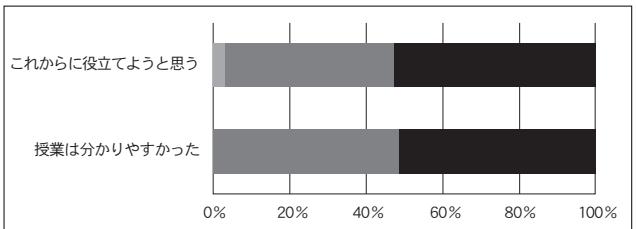




⑸　授業評価と生徒の感想

図７は，授業終了後に行った生徒による授業評価の結果である。50分弱という時間の中で，49枚のスライドを使った早口での授業ではあったが，「授業の分かりやすさ」については，「とてもそう思う」「そう思う」を合わせ100％，そして，97％の生徒が「これからに役立てようと思う」と答えている。

また，授業の感想文においても，ほぼ全ての生徒が以下のように内容を肯定的に受け止めており，筆者は本授業のねらいについては，ほぼ達成できたのではないかと考えている。



	授業は分かりやすかった	これからに役立てようと思う
■全然そう思わない	0	0
■そう思わない	0	2
■そう思う	32	29
■とてもそう思う	34	35

図７　授業内容に関する評価

・*今日は，色々生について知ることができました。思春期でいろんな悩みがありましたが，先生の話ではずかしくないことがわかりました。ためになる話をしてくれて，ありがとうございました。*
・*いろんな性器の形があることが分かった。ぼっきしているとき，ぼきって性器が折れることがあることを知った。性交をして良い資格を知った。性病にならない為に，今は性交をしない方が良いことを知った。性病にも。たくさんの種類があることを知った。ユーモラスで，面白い授業を，ありがとうございました。*
・*今回の授業で，いつも自分が口に出すのが恥ずかしいと思っていることを，どんどん話してくださったので，自分の素直な気持ちで授業を受けることができました。これからも，自分の「性」と向き合っていきたいです。*
・*日本人の70％が仮性包茎ということを初めて知ったので，自分に自信を持とうと思います。セックスは，面白半分でやってはいけないのだと，改めて思いました。*

・*性や生について簡単に考えていたところがあったので，今日の授業を受けて，とてもよかったです。自分の体について，もっとよく知れたし，異性の性の状態や他の人の体の状態は，必ず差や違いが出てくるので，それをよく知る必要があります。一番は，相手のことを考えて行動することが大切だと思いました。*

・*正しい性について理解を深めたと思う。まわりに合わせるだけじゃなく，しっかり自分を持つことも大切だと思った。性に対するリスクなどもちゃんと理解して，女性を大切にすることが大切である。*

・*今日は，性について様々なことを知ることができました。精子は，作るのに74日もかかることや，性にはいろいろな種類があって，心の性，体の性などがあることがわかりました。これから，性についてまじめに考えることができます。*

・*今回の講演会で，思春期の性について真剣に考えることができ，とてもためになる事を学びました。思春期は，性について考えたり，悩んだりすることが多く，苦しい時期ですが，それに対して，目を背けずに，しっかり向き合うことで，乗り切れることが分かりました。*

５．おわりに～中学生男子の性教育内容構成の課題

⑴　生徒の実態を捉えた内容構成の必要性

『Sexuality』誌の実践分析でも触れたように，性教育の内容を構成していく前提は，生徒の実態を踏まえることである。その場合，実践の担い手である教師（集団）自身が，子どもたちの実態にどのレベルで向き合い，そこからどのように課題を探り出し，教育という営みとしてそれにどう迫るかが決め手となる。思春期における性教育の真の目的は，いやらしさや恥ずかしさの壁を乗り越えて，子どもたちの生きる苦悩の時代に切り込みを入れ，「今」と「未来」を照らし出すことにある。

笹良が聞き取った少女の叫び声を，自分たちの目の前にいる子どもたちの現実の姿の中から聞き取る作業を丁寧に行っていく必要があろう。その作業を通すことにより，子どもたちに獲得させるべき性教育の内容，そして，「放置された」男子の性教育の内容も見えてくる。ここで検討したわずか１時間の「特別授業」であっても，子どもたちにとって，自らの「性と生」を見つめる大切な学びの場となっていたことからも明らかなように，彼らは，「性」をしっかりと学ぶ力を持って存在している。

⑵　共修内容としての男子の性教育内容

筆者が担当している学部の「特別活動の研究」において，Ｃ中学校で行った授業を模擬授業として再現した。授業内容に関する学生の感想文の一部を紹介してみよう（〰〰は筆者）。

・*今まで性教育というと，男子は男子，女子は女子と分けられて，それぞれのからだの仕組みについては詳しく習うけれど，異性の体の仕組みはさらっとしか教わってこなかったように思う。今回，先生の話を聞いて，これまで性に関しては月一で生理がある女子の方が絶対大変で不公平だと思っていたけれど，男子は男子でいろいろな悩みがあって大変なんだなと思った。お互いの体の仕組みをきちんと理解することで，思いやることができるし，一歩踏み込んだ授業を早期にやっておくことは，将来のためにもとても大切なことだと思う。自分も，子供たちに自分を大切にしてほしいという願いを込めて，性教育を責任を持ってできる教師や親になりたい。*

・*今回は，男子生徒に向けた性教育の授業で，今まで受けたことのない内容だったので，とても新鮮に感じました。〇×クイズでは，間違っていたり，そもそも考えたことがなくてわからない問題もたくさんありました。男性は女性の体のことも知っておかなければならない，とよく聞きますが，逆に女性も男性の体について知らないことがたくさんあり，知っておかなければならないことだと思いました。小中学生で，男女分けて性教育をすることはいいことだと思いますが，そ*

のうちの何回かは合同の授業もした方がいいのではないかと思いました。

ここには，自身の性的教養不足の表明と，男女の体や性に関する学びの場が共通に準備される必要性が綴られており，この共通に学ぶ場の必要性に関しては，筆者も同意見である。県内の中学校では，男女別れての授業（講演）形態も一般的になっているが，思春期の感情に寄り添うことはもちろん大切しながらも，「性の学力保障」に向けた全ての子どもの必修教育内容として準備される必要があるだろう。

⑶ 「隠れたカリキュラム」への配慮

最後に，性教育における「隠れたカリキュラム」という視点から，今後配慮すべき課題について指摘しておきたい。１つは，今回の飛び込み授業という形態の内包する消極的側面への配慮である。専門家による飛び込み授業は，専門的知識に支えられた学習を保障すると同時に，やはり「性」の世界を，専門性という「特別」な枠内にあるものとして意識づける危険性を持ち合わせている。「性」とは，子どもたちも含み込んだ，個々に生きるわれわれの現実生活の中に具体的に存在するのであり，一人ひとりが主体的に自分自身の「性」を見つめ，向き合っていくことに向けた丁寧な配慮が求められる。

２点目は，性教育の実施形態がもたらす男女二分法という「刷り込み」の危険性への配慮である。今回は，女子を対象にした女性ゲスト講師による授業も同時進行で行われたが，こうした２つの性に分かれての授業形態は，「性の多様性」という視点からみて問題はないのだろうか。性教育の内容論として，例えばLGBTQの当事者の視点を通した，性教育の実施形態自体も検討すべき課題となるであろう。

［注］

１）沖縄県HP 平成27年人口動態統計（確定数）の概況「母の年齢別出生数と構成割合の年次推移」，沖縄県ホームページ（2016年11月29日取得，http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/hokeniryo/tokei/toukei/vs/h27/h27jindo.html）のデータより。

２）男性教諭，女性教諭という二分法での把握自体が，既に時代錯誤的であるが，ここでは，生物学的な性に依拠した性別把握により分類して，実践傾向の把握を試みている。

［文献］

橋本紀子・篠原久枝・田代美江子他・鈴木幸子・広瀬裕子・池谷壽夫・艮　香織・小宮明彦・渡部真奈美・茂木輝順・森岡真梨，2011，「日本の中学校における性教育の現状と課題」『教育学研究室紀要：「教育のジェンダー」研究』女子栄養大学，９：３-20.

村瀬幸浩，2014，『男子の性教育』大修館書店

笹良秀美，2016，「沖縄の子どもたちの性と向き合って見えてきた“現在と未来”」『Sexuality』№75：95.

戸田玲子，2011，「大好きだから！～ホントの気持ち伝えられる？～」『Sexuality』№50：56-57.

吉村良枝，2003，「ディベート・中学生の交際に限度はあるか」『Sexuality』№9：86-87.